な分析手法を学ぶためのワークショップセミナーが行われた．筆者は近年，生活時間調査を用いた分析の機会が増えてきたことから，前日のワークショップから参加した．

学会では，テーマや関心の異なる様々な研究報告が行われた．筆者は主に，ジェンダーと家族生活との関連に関心があったため，これに関係するセッションを中心に回った．また，自身は Women's Work and Work-Life Balance のセッションで，“Counting Women's Work in Japan”と題する口頭報告を行った．会期中，午後の最初のセッションは Keynote Lecture と題して，当該分野の著名研究者による講演にあてられており，生活時間研究の先端に触れることができた．今回はじめて参加した学会であったが，参加者同士の距離感が近く，交流の機会も多く設けられていたため，非常にアットホームな印象を受けた．生活時間データは，2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の成果指標として採用される等，近年，政策や研究における利用が進んでいる．個人的には，今後も機会があればフォローしていきたい学会の１つであると感じた．次回は2017年７月19-21日，スペイン・マドリッドでの開催とのことである．（福田節也　記）

フィリピン人口登録ワークショップ

2016年８月23日（火）から25日（木）にかけて，フィリピン・イロイロにて開催されたフィリピン人口登録ワークショップ（8th National Workshop on Civil Registration）にオブザーバーとして参加した．人口登録，つまり日本でいうところの出生・死亡・結婚・離婚登録は，多くの中・低所得国でいまだ全数登録されるに至っておらず，少なくとも出生を全数登録を行うことは，昨年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の目標16に明記されており，現在各国で制度の拡充が進められているところである．フィリピンでは市町村レベルに１人，国家公務員である人口登録官（Civil Registrar）が国家公務員として配置され，２年に１回，全国の人口登録官が一堂に会して，最新の情勢・法制度を周知するためのワークショップが開催されているが，今回はその第８回目に当たる．ワークショップは，人口登録の担当省庁であるフィリピン統計局の主催であるが，法務省，外務省，教育省，社会福祉開発省といった関係省庁も参画している．フィリピンの出生登録はセンサスによれば，2000年の88.2%から2010年の93.5%まで上昇しており，2030年までの全数登録達成が期待される．（林　玲子　記）

東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）「東アジアにおける国際人口移動と開発」第２回ワークショップ

2016年８月26日（金），タイ・バンコクの Grande Centre Point Hotel 会議室にて，東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）が主催する「東アジアにおける国際人口移動と開発」第２回ワークショップが開催された．このワークショップは，2016年４月にジャカルタで開催された第１回会合に引き続いて開催されたものであり，当研究所からは，国際関係部長林玲子，同第二室長小島克久，同研究員中川雅貴の３名が参加した．前回と同様に ASEAN 域外から唯一の参加となった日本の研究チームのほか，タイ，マレーシア，インドネシア，ベトナムの各国で組織されているプロジェクトチームの参加者が，それぞれのプロジェクトの中間発表および進捗状況の報告を行った．日本の研究チームによる「グローバル・エイジング時代のケア人材の国際移動」に関する研究の中間発表に対しては，日本国内におけるケア需要の将来動向ならびに充足状況が，アジア・太平洋地域におけるケア

人材の国際移動に与える影響などに関する質問が出されるなど，活発な議論が行われた．また，ジャカルタの国立科学院（Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia: LIPI）に所属する研究者で構成されるインドネシアのプロジェクトチームからは，日本での技能実習経験のあるインドネシア人帰国者を対象とした調査研究についての情報が提供されるなど，今後の国際連携・共同研究の推進に向けた有意義なネットワークの土台を構築することができた．（中川雅貴　記）

2016年ヨーロッパ人口会議

ヨーロッパ人口会議（European Population Conference 2016）が2016年８月31日～９月３日にかけてドイツのマインツ（ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ）にて開催された．ヨーロッパ人口会議は1983年に設立された国際会議であり，主にヨーロッパの人口問題について研究活動を行っており，２年ごとに開催されている．今大会はハンガリーのブダペスト（2014）に続き，「人口学的変化と政策的含意（Demographic Change and Policy Implications）」を主要テーマとして開催された．

大会はオープニングセレモニーにおいて２つの基調講演があり，会期中の３日間では14テーマ（「出生力」「再生産と健康」「家族と世帯」「ライフコース」「高齢化と世代間関係」「国内移動と都市化」「国際移動と移民人口」「健康，ウェルビーイングと疾病」「死亡と長寿」「歴史」「データと手法」「経済，人的資本と労働市場」「政策関連」「開発と環境」）について，123のセッション（約500の口頭報告）と約250のポスター報告が行われた．

当研究所からは山内昌和（人口構造研究部室長），小池司朗（人口構造研究部室長），菅桂太（人口構造研究部室長），鎌田健司（人口構造研究部主任研究官），福田節也（企画部主任研究官）の５名が参加し，下記のポスター報告を行った．

- 山内昌和・小池司朗・鎌田健司“Japan's official subnational population projections accuracy: comparative analysis of projections in Japan, English-speaking countries and the EU”
- 菅桂太“Married women's employment and the timing of the 1st marriage and the 1st child-birth in Japan: patterns and covariates”
- 鎌田健司“Diffusion process of fertility transition in Japan: regional analysis using spatial panel econometric model”
- 福田節也“Gender role division and well-being of the couples: evidence from the Netherlands, Germany and Japan”

（鎌田健司　記）

アジア人口開発議員連盟（AFPPD）
第１回アクティブエイジング常任委員会

2016年９月８日（木）に，ベトナム・ハノイでアジア人口開発議員連盟（AFPPD）第１回アクティブエイジング常任委員会が開催された．前日・前々日には同じ会場でヘルプエイジ・アジア太平洋会議が開催されており，それに連動した形での開催であった．委員会にはアジア太平洋20カ国から29名の国会議員が参加し，アジア太平洋地域の高齢化の現状を確認すると共に，各国の状況の報告を通じて，議論が行われた．筆者は“Reality Check of Asia's Diverse Ageing/Aged Societies: Data & Policy Implications”と題する基調報告を行った．アジア太平洋地域は今後高齢化が進行していく